

◆ Zn/Ag対ACMセンサデータを説明変数とする海塩粒子付着量予測の機械学習モデル構築 -地域別における予測精度の検証-

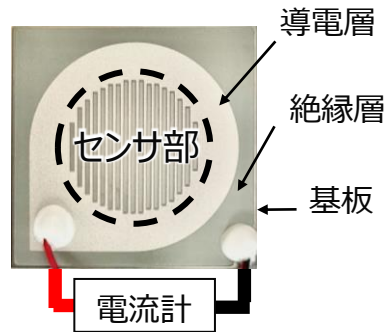
概要

- Zn/Ag対ACMセンサ出力値から海塩付着量を求めるため、一般化加法モデルを用いた機械学習モデルを構築した。
- 異なる3地域の測定データをまとめて学習した一つのモデルは、地域ごとの予測が可能であることを確認した。
- ただしZn腐食生成物の状態変化が出力挙動に影響を与えることから一部補正が必要となることが判った。

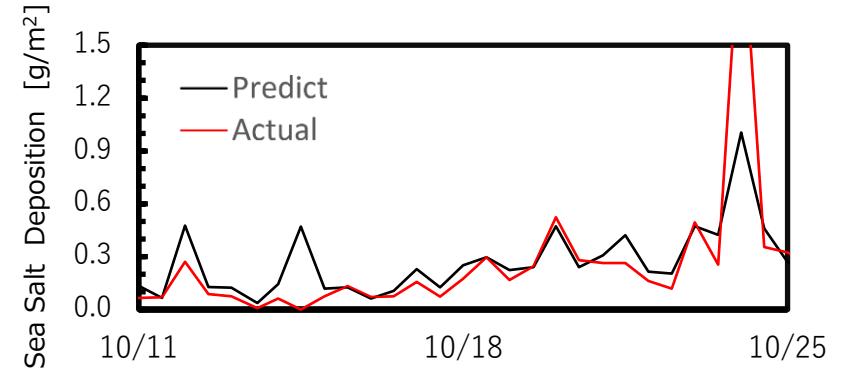
異なる3地域の測定データを使用

- ① 沖縄県Site I
- ② 沖縄県Site II
- ③ 福島県Site I

測定地点

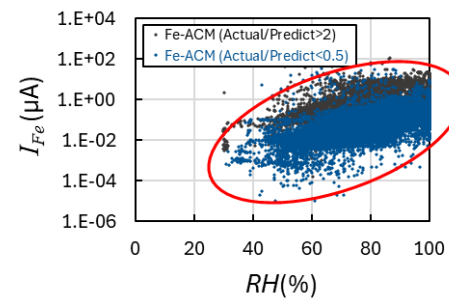


ACMセンサ外観

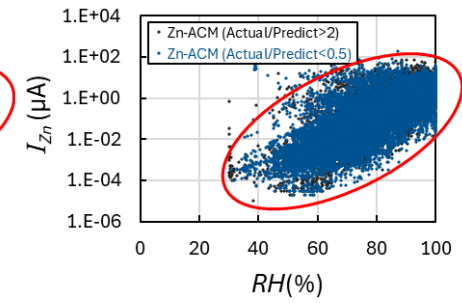


海塩付着量の予測値と実測値(沖縄県Site II)

Fe-ACM (目的変数)



Zn-ACM (説明変数)



予測差異が生じた期間におけるACMセンサの出力挙動